

令和4年度 江戸川区立東葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	◎豊かな心情や情操を養い、思いやりの心を培う。(やさしい子) ・思考力、想像力、表現力を養い、問題解決能力を育てる。(やりぬく子) ・安全安心に努め、健全な心身の育成を図る。(げんきな子)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子供の笑顔が輝きあふれる、楽しい学校、教職員が教えることよるこびに満ちた学校、保護者、地域から信頼され愛される学校 確かな学力、豊かな人間性、健やかな身体 児童理解、授業改善、生活指導の充実を図り、自己研鑽をしながら学校組織の一員としてより良く協働していける教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>〈成果〉昨年度に引き続き感染症予防対策をしつつ、校長の経営方針「子供が輝く学校」をテーマに教職員が道徳の授業を中心に児童理解を深め、児童一人ひとりの自己肯定感を高める活動を実践している。また、日々児童の健康と心の安定を図り、欠席者の少ない安心安全な学校生活を送ることができている。「基礎学力向上委員会」を中心に、東京ベーシックドリル等の定着度を基に、かけ算九九及び漢字の校内検定、朝学習や放課後学習(業者委託と各担任)での個別指導を通して、基礎学力の定着をさせつつ、学習意欲の向上を図った。</p> <p>〈課題〉既習事項の習得の低い児童に対して、確実な基礎学力の定着と共に、全ての授業において「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、個々の教員が各教科等の特性を踏まえて授業改善に取り組むことが必要である。〈成果〉</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・年2回の「校内学力調査」の実施から児童の実態を把握し、朝学習、毎週の放課後補習等で個別指導を行う。 ・国や都の学力調査を基に、児童の基礎学力の定着と読解力の向上を図る。 ・外部講師を招聘し、校内研究会を充実させ国語科における児童の弱い部分を克服のため、授業改善や指導方法等を検討する。	80%	A	B	○週2回の朝学習や毎週金曜日の放課後学習と、業者による補習を各学年毎週1回実施することで、特に中間層の児童の学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を促した。年間を通して国語科を中心とした授業改善により、読むことや書くことの学力を向上させた。 ●引き続き、算数の文章題や国語の読解力等が課題なので、読む、書くことの強化を図る。	B	児童の基礎・基本の学力の定着は図られていると思われる。しかし、中には未だに前学年からの既習事項が、不十分な児童もいる。放課後補習等で個の状況に応じた指導や、一定の時間や方法を工夫した、家庭学習の習慣や啓発が必要である。	業者による放課後学習と上手に連携して、個の状況に応じた内容の指導や進捗状況を確認する。特に基礎学力の不十分な児童への指導は、教科及び学年で共有し、各家庭へ学習の仕方や習慣等の定着の働きかけをする。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体育の授業にて学年に応じて系統性をもたせ、柔軟性と瞬発力を鍛える体づくり運動に取り組む。 ・なわとび週間等の、運動遊びを全学年で取り入れ、実践する期間を設け、運動することの喜びを味わわせることで意欲を向上させる。	70%	B	B	○体育の授業や休み時間に身体づくり運動を取り入れ、春の運動会で表現活動の充実や体力テストで体力の数値のアップさせた。また、持久走月間やなわとび旬間を取り入れ、運動意欲を向上させた。 ●感染症や熱中症及び工事等で活動が制限があったが、室内でできる運動等の工夫や開発が必要がある。	B	児童は元気に外で遊ぶ様子が見られたり、体育の授業で体力づくりの活動が工夫がされている。運動会では昨年より種目も増え、応援も加わり盛況であった。しかし、ここ数年の感染症対策で運動量の減少と体力向上に不安が残る。さらに運動意欲と体力向上のためには、日々の楽しく取り組める運動あそびや企画等が必要である。	室内でも実践可能な体づくり運動等を検討し、発達の段階に応じて、すべての体育の授業で導入することで柔軟性や運動する楽しさや喜びを身に付けさせる。継続して、季節に応じた楽しめる運動の取り組みを、全校で推進していく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・週2回の朝読書を充実させるとともに、各教科等における探求的な学習である、「調べ学習」の充実を図る。 ・読書科で学校図書館を有効活用した授業を実践する。近隣の図書館の訪問や団体貸し出し、派遣の図書館司書等とより良い連携を取りながら、読書活動の充実を図る。	80%	A	A	○読書科や総合的な学習の時間で調べ学習に取り組み、夏休みの課題や他教科の学習において、情報収集の活用や応用の仕方が上手になっている。秋から復活した、図書ボランティアによる読み聞かせで、児童の情緒の安定や学習意欲の向上に役立った。 ●読書活動の内容の充実と共に、さらに読書量の増加と読解力の向上を図る。	A	調べ学習をする児童が定着しているのはとても良いので、取り組みを工夫して学年や全校で継続してほしい。また、児童が落ち着いて読書をする様子が定着し、図書ボランティアによる読み聞かせ活動によって、児童の情操面が豊かになっていっていると思われる。	個々の読書量や、読書の質を向上させるためには、読書科における授業展開の工夫と他教科との連携が必要である。継続して、連携図書館から派遣の図書館司書を上手に活用し、レファレンスや調べ学習の手助け、読み聞かせ等を通して、読書を愛好し心豊かな児童を育てていく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備と個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの効果的な活用 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・SC・SSW、巡回特別支援の心理士と連携し、気になる児童の見立てや対応について、校内委員会等で検討する。 ・配慮を要する児童の状況やエンカレッジルームの活用について、週1回の生活指導夕会や職員会議において情報共有と対応策を検討する。 ・間接や直接の副籍交流を通して、児童に障害者理解や共生社会実現への意識を醸成させる。	90%	A	A	○気になる児童や配慮を要する児童について、本人の課題や特性について、SC、SSWを活用して情報共有や対応策を検討し組織的に対応している。必要な場合は、特別支援教室や関係諸機関と連携して課題解決を図っている。 ○副籍交流を再開し、障害者理解や共生社会の実現理解をしている。 ●継続してケースに応じて、児童理解や障害特性等の知識や対応方法等のスキルアップになる、教員研修が必要である。	A	特別支援教室を中心に、配慮を要する児童へSCやSSWが入ることで、課題が解消しつつある。本校は拠点校であり、当該児童に対する指導や周囲の理解は進んでいる。副籍交流も再開したので、今後も障害者理解や共生社会の実現につながるような教育活動や指導を継続していくことを望む。	気になる児童や問題行動等について、全職員で情報を共有する。SCやSSWの役割を活用し、情報共有や対応策を各委員会等で検討していく。児童理解や特別紙支援教育の知識を、定期的に校内研修や伝達講習等で実施し、教員の対応や指導方法の工夫や改善を図る。
	子供たちの健全育成	・いじめ・不登校等の未然防止や早期発見に向けた、魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・ふれあい月間やQU調査などで児童の実態を把握し、いじめや不登校の未然防止と適切な初期対応をする。 ・児童相談所等の外部機関と連携し、児童の問題行動等の未然防止と解決を図る。	90%	A	A	○学校全体で学習や生活規律、規範意識の醸成をし、大きな事件や事故を防止した。問題行動の未然防止のアンケート等で、いじめ等につながるような児童トラブルを早期対応し解決につなげた。不登校児童へもSSWを活用し、状況をやや変化させることができた。 ●今後も不登校や登校しぶりなどの児童に対して、SC、SSWの活用や、より一層の関係機関との連携が必要である。	A	いじめや不登校など問題行動は少ないと聞いているが、様々な家庭事情が背景にある。今後も登下校等の生活指導は必要である。継続して道徳心や公共に対する生活規範意識は指導してほしい。なお、感染症予防対策がきちんと遂行されているので、全体的に安心・安全な学校生活となっている。	いじめや不登校など問題行動については、細かいトラブルや兆候がみられた際は、迅速に担当から主任、主幹、管理職への報連相を通して、組織的に解決できるようにする。児童理解を深め、SCやSSWとよく連携できるよう組織対応ができるよう改善をしていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校公開や学校行事の際に、学校評議員に教育活動の内容等を丁寧に説明することで、校長の経営方針に対する理解や協力を要請する。 ・教育活動の充実と改善のため、ホームページ等で随時、活動内容を発信し、児童や保護者に評価項目に沿って適正な評価につながるよう働きかける。	80%	B	B	○随時、ホームページ等で活動内容を発信し、学校評議員や児童や保護者に本校の特色について、発信することができている。また、メール等も効果的に活用し、保護者への連絡をスムーズに実施することができた。 ●さらに、ホームページの充実や適正な学校評価につながるような、分かりやすい通知等を発信していく。	B	ホームページが一新して、活動やお便りや通知等が見やすくなった。また、更新がかなりリアルタイムで多くなったので、教育活動の様子がわかりやすくなった。今後も、人権上に配慮しながら、発信を継続して学校の特色が分かるようになってほしい。	継続して、各行事や学年の取り組みなど、教育活動の様子をタイムリーに発信できるようにする。ICT関係の組織をしっかりと機能させ、教員の役割分担やICTのスキルアップを図ることで、誰でもホームページ等を更新できるようにしていく。学校評価については、これまでの評価項目を再考し、分かりやすい形で、適正な評価になるようにしていく。
	教員研修の充実	・教育DX活用に関する知識やスキルを向上する。学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・これまでの情報発信方法、ホームページメール等に加えて、DXを活用し効率的に円滑に進めるための工夫を検討し実践していく。 ・学習用タブレットの活用について、計画的・系統的に扱えるように、随時業者等も活用し伝達講習や研修でスキルアップを図る。	80%	B	B	○学習用タブレットを各教科等で活用し、授業改善や児童の学習意欲を高めている。また、児童の情報活用能力育成のため、オンラインで研修や研究を工夫することで、教員の知識やスキルアップにつなげている。 ●デジタル教材の活用やオンライン授業の実施で、より効率的・効果的な教育活動ができるようになる。	B	児童は学習用タブレットに随分使いこなし、授業や各家庭でよく活用している。今後は情報モラルや使用方法を、東葛西小ルールと各家庭でのルールを守るよう、より連携していく必要がある。また、今後の感染症の対策における、オンライン授業の推進を期待する。	情報モラルの指導の充実と、タブレット使用上の学校、家庭でのルールの徹底を働きかけ継続していく。教員に情報活用関係のスキルアップさせ、状況や必要に応じて、オンラインの取り組みを増やすことで、授業改善や感染症対策等にも対応できるようにしていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・教職員に仕事のタスクやマネジメント方法を示し、超過勤務時間や休日出勤を控えるよう働きかける。学校問題や校務分掌等は個人で抱え込むことなく、組織的な対応を図ることで、教員個人の負担感や疲労感を軽減していく。	70%	B	B	○仕事のタスクやマネジメント方法、勤務時間の打刻、留守番電話対策等で60時間以上の超過勤務の教職員をかなり減らすことができた。 ●学校行事や成績処理など、計画的に進め、超過勤務になりがちなことに対して、セルフ及び関係する教職員間のマネジメントができるようになる。	B	教職員の勤務時間や電話対応時間等をホームページ等で表示されているので、保護者や地域への働き方改革の理解が得られている。現状では上手に仕事をマネジメントして、メンタル不調等でお休みをする教員がいないのでとても安心している。	教職員一人ひとりが仕事に対する能率と効率を自覚し、セルフマネジメントと組織対応ができるよう学校全体で取り組む。また、学校行事や成績処理などの際、見通しのある計画と役割分担等で、個人と組織の仕事の配分を上手に調整する。そのことで、不測の事態にも対応できる余力を残し遂行できるようにする。
	特別活動の充実	・縦割り班活動等の異学年交流による、児童間の相互理解や支え合いや学び合い等の推進	・周年行事に合わせて、感染症対策を取りながら、年間行事を計画的に実施することで、児童間の直接や間接的な定期的な交流を実施する。	80%	A	A	○周年行事や各イベント等(運動会、高学年の行事)に、各学年間でコメントや励まし等メッセージで交流を校内に掲示で、児童間の相互理解や豊かな心の育成につなげている。また、縦割り班活動で高学年のリーダーシップにより、遊びや交流を展開したたかい学び合いや帰属意識を醸成している。 ●縦割り班活動が形式的にならないよう、高学年に自覚をもたせ、各イベントの趣旨に合わせて、児童が主体的に活動できるよう、指導の工夫をしていく。	A	学校公開等で、校内に児童の成果物から児童の交流の様子がよく見ることができ、あたたかい活動の様子がわかる。特に周年行事に向けた取り組みは、各学年で創意工夫した装飾や活動の様子を見ることができた。ホームページやオンラインで見れるなど、さらなる情報発信を期待する。	継続して、児童が主体的に活動をしていけるよう、特別活動委員会を中心に、各行事等の企画を児童に考えさせて実践していく。今後も様々な行事の取り組みや縦割り班活動の様子を、個人情報に留意しながら、随時ホームページやオンラインでアップしていくことで、学校の良さをアピールしていく。